令 和 ４ 年 度 事 業 報 告

公益財団法人　滋賀食肉公社

１　事　業　概　要

「近江牛」をはじめとする県内産食肉の流通拠点である「滋賀食肉センター」の設置者および管理者として、安全安心な食肉を安定的に供給するため、ＨＡＣＣＰ（危害分析・重要管理点）方式による衛生管理を推進した。

令和４年度は、過去最高のと畜頭数となり、また、県からの支援等もあり、昨年度に引き続き、単年度黒字（当期一般正味財産の増加）を達成したものの、操業開始から16年が経過して、施設・設備の老朽化が進み、修繕費が増加するとともに、電気料金や燃料費、廃棄物処理費の増加等から、収支改善が思うように進まず、資金繰りは依然として悪化する傾向にあるなど、厳しい状況が継続している。

２　事　業　実　績

(1) と畜頭数

令和４年度のと畜頭数は、過去最高の9,142頭となり、計画頭数を392頭上回った。

	牛と畜頭数
計画	8,750頭
実績	9,142頭

(2) 食肉センターの経営健全化

平成29年３月に策定した第３次経営健全化計画に基づき、経常的な経費の節減や大規模太陽光発電事業の実施等、収支両面にわたる経営健全化対策を実施した。

昨年度に引き続き、単年度黒字を計上したが、依然として多額の累積欠損を抱え、厳しい経営状況が継続していることから、経営の健全化を図るため、令和５年３月に第４次経営健全化計画を策定した。

(3) 食肉センターの施設・設備の適切な維持管理

令和３年度に策定した滋賀食肉センター長期保全計画に基づき、県の支援を受けながら、緊急度の高い施設・設備の更新・修繕等を行った。

(4) ＨＡＣＣＰ方式による衛生管理の一層の推進

管理運営会議、業務調整会議等の定期会議を通じ、関係機関が連携してＨＡＣＣＰ方式による衛生管理体制の強化と業務の見直しに努めた。

(5) 安全安心を届ける普及啓発事業の展開

新型コロナウイルス感染症の影響を受け各種イベントの開催が中止されたため、公共施設等での展示を中心に事業を実施した。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、センター施設見学の受け入れは停止した。